

ばんけい

教育ほつとにゅーす
かわら版こ みち
教育の小径No.108
2017 October
10月号国士舘大学教授
北 俊夫先生

今月のことば

お茶を濁す

いい加減なことや無責任なことを言って、その場をごまかすことです。「言葉を濁す」は曖昧な言い方をするということです。

ノート指導の充実を

- ノートは多くの授業で使われています。子どものノートを見ると、学習や学力の状況だけでなく、授業の概要を垣間見ることができます。
- ノートに記述する内容を充実させるには、ノートの使い方を指導するとともに、書く中身をしっかりと身につける必要があります。

ノートを見ると気づくこと

ノートは学用品の一つです。子どもたちは各教科ごとのノートを用意しています。進級すると、新しいノートを購入求めることもあります。

授業を参観すると、子どものノートに目がいきます。すると、ノートがさまざまな方法で利用されていることに気づきます。教師が板書したことをそのまま書き写しているもの、自分の考えを書くなど自分のノートを作っているもの、家庭学習との関連が見られるもの、単なるメモ程度に利用しているものなどさまざまです。ほとんど白紙のままのものもあります。なぜノートを活用するのか。ノートの役割を改めて確認したいものです。

ノートに何がどのように書かれているかを見ると、その授業の様子がわかります。ノートを見ると、教師がノートの使い方を指導しているかどうかわかります。内容が上手に構成されるなどノートの書き方が工夫されている場合には、教師がノート指導を行っていることが多いようです。

ノートを上手に利用する子どもは一般に学力が高いことに気づきます。このことは大学生に対してもいえそうです。ノートに記述するという活動は、

理解力や表現力を高めるだけでなく、論理的な思考力や判断力、構想力や構成力などの能力をはぐくみます。

授業の途中や終末に、わかったことや考えたことをノートに書いたり、書いたことを読んだりすることをうながすことがあります。こうした行為には学習成果を定着させ、学力を向上させる重要な機能があります。このように考えると、ノート指導は重要な指導事項だといえます。ノート指導の大切さを改めて確認したいものです。

ノートの書かせ方のポイント

子どもたちがノートを上手に利用することができるようにするためには、教師の指導が不可欠です。ノートの書き方を指導することなく、子どもが書き方などの技術を身につけることは考えにくいです。ノート指導のポイントは次のようなところにあります。

まず、1見開き(2ページ分)を1単位時間で利用することを原則にし、授業の流れに沿ってノートを構成していきます。横書きの場合、左ページの上には「今日のめあて」を書きます。そのあと、予想したことや資料などでわかったこと、考えたことなどを記述していきます。従って、右ページの下の方には今日の「学習のまとめ」を

書きます。ノートの内容を問題解決的に構成することがポイントです。

次は、書く内容をしっかり指導することです。一人一人の子どもが学習内容や自分の考えなど書くことを身につけていなければ、ノートに書くという活動は成立しません。これは書く中身を直接教えるということではありません。自分の考えがもてるように考えさせることであり、理解できるように分かりやすく指導することです。配布した資料をノートに糊付けさせたり、文章のほか関連図や図表などでまとめさせたりすることもあります。

また、「はじめは、○○○と考えていました。でも、△△さんの意見を聞いたり資料を見たりして、□□□だと考えが変わりました」のように、自らの思考の変容や理解の深まりを意識して書かせるようにします。これは、ノートは学習の足跡であることを指導することです。小学校では、テストに備えてノートを後で読み返すことはほとんどありません。書くという活動そのものに重要な意義があります。

さらに、ノート指導の重要なポイントは、書くための時間をしっかり取ることです。中身のある内容をできるだけ長文で書かせるようにします。国語科において、文章の書き方や書く力を身につけさせることが大切です。

今月の
記念日銭湯の日
(10月10日)

昭和39年(1964年)のこの日、東京オリンピックが開催されました。スポーツのあとの入浴は健康によいことから、東京の銭湯の組合がこの日を定めました。1010は「せんとう」と読めます。

応急処置の指導

さまざまな災害から身を守るために「自助、共助、公助」の大切さが強調されています。そのうち「自分の身は自分で守る」ことが基本です。

学校での危機管理を考えると、学校として子どもの命をどう守るかという事は重要な課題です。合わせて、子どもに危険回避能力を育て防災意識をどう養うか。そのために必要な基礎的な知識や技能をいかに身につけるかということも大切になります。前者は危機管理の体制や仕組みや整備などハード的な側面であり、後者は子どもへの直接的な教育指導の側面です。

小学校高学年の体育科（保健領域）では、これまでも、周囲の危険に気づくこと、的確な判断の下に安全に行動すること、簡単な手当を速やかに行うことなどが指導されてきました。これらは、自分の身を守るために必要な知識や技能です。新学習指導要領には、これらのほか、危険の予測や回避の方法を考えることが示されました。

災害や事故に遭遇したとき、いつも周囲に援助してくれる人がいるとは限りません。援助の手が差し伸べられるまでは、やらなければならないことを自分で考え、自分で行わなければなりません。例えばけがをしたとき、三角巾や包帯の使い方、出血の止め方など、応急処置に関する知識や技能が必要になります。これらは、「共助」の観点から周囲の人たちに支援者として関わるときにも生かされます。



教育の動向



教員の勤務実態調査

文部科学省が実施した、平成28年度における教員の勤務実態に関する調査結果が公表されています。これは全国の公立小・中学校（約400校）の校長、副校長・教頭、教諭、約2万人を対象に、昨年の10～11月の連続する7日間の勤務時間を聞いたものです。10年ぶりに実施されました。

小学校の教諭は、1日の勤務時間が11時間15分でした。10年前と比べて43分も増えています。中学校の教諭は部活動の指導を行っていることもあり、11時間32分でした。10年前と比べて32分増。小学校の副校

長・教頭は12時間12分でした。

今回の調査では、小学校教諭の34%、中学校教諭の58%が過当たり60時間以上も勤務していることが明らかになりました。民間の会社や一般の公務員は、過当たり40時間の勤務が基準ですから、これと比べると、過当たり20時間の超過勤務をしていることになります。1か月に換算すると、80時間を超えます。

教員の多忙化、激務化が指摘されて久しいですが、このことが数字の上でも立証されたことになります。

現在、過労死が社会問題になり、働き方改革が課題になっています。教員の働き方や勤務のあり方について早急に検討し、人的、財政的支援を含め、抜本的な改革が求められています。

シリーズ 研究授業の目 12のポイント 12

授業終了時点のつぶやき

研究授業を参観するとき、授業の終了時点にも注目しています。

「え！ もう終わったの！」「今日の勉強はよくわかったよ」「発表ができて満足だ」など、授業に対する満足感や成就感を表出しているつぶやきを聞くことがあります。「今日の勉強は思っていたより難しかったな」「授業のはじめに考えていたことがまるっきり変わってしまったよ」などのように学習の変容を意識したつぶやきを聞くこともあります。また、退屈していたときや理解が十分でなかったときには否定的なつぶやきが聞かれます。

このようなつぶやきは、子どもたちが時間を忘れて取り組んできたとき、思考や理解が深まったことに自ら気づいているときなど、自然な状態で発せ

られる傾向があります。ここに授業を評価する際のポイントがあります。先に紹介したつぶやきはいずれも授業の終了後ですから、子どもたちはホッとした状態です。かなり「本音」に近いものと受けとめることができます。

終了時の何げないつぶやきは、子どもたちが授業や学習成果をどのように実感しているか。今日の授業をどのように受けとめているかを表出したものです。子どもによる授業評価の一面といえます。つぶやきが聞かれるのは、その学級に自由にもものが言える雰囲気醸成されている証しです。

教師は、日ごろから子どもたちの豊かな人間関係をつくることを心がけます。また、聞き逃してしまいがちなつぶやきを拾う力、瞬時に変わる表情や態度に気づく力、心の奥を洞察する力などを身につけたいものです。

INFORMATION

ぶんけいの冬休み教材

基礎・基本から活用まで

各教科の復習に!



国語・算数を重点的に!



編集後記

108号より編集担当が交代になりました。「教育の小径」は平成20年11月創刊。次号から10年次に入ります。慣れない仕事となりますが、皆様へわかりやすい誌面になるように頑張ります!引き続きご愛読のほどよろしくお願い致します。(K記)

企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2017年10月1日